



さくら



題字 足立区長 近藤 やい
足立区民生・児童委員協議会だより

発行

足立区民生・児童委員協議会
会長 市村 智
編集 広報委員会
発行日 2023年11月1日
〒120-8510
足立区中央本町1-17-1
TEL 03-3880-5870



「自分が一番だと思っている木」 花畑西小 5年 鹿養誠太郎 作

目次

合同会長あいさつ	1
全員研修会	2
会長協議会視察研修	3
特集 未来をつくる 若者を支える	
足立区給付型奨学金など	4・5
地域の活動報告	6
子どもたちはいま	7
老後を考える	8
さくらアンケート	8

合同会長あいさつ



振り返ってみれば

第三合同会長 川上重昭

思い起こせば平成10年12月1日付
けで、時の宮下創平厚生大臣から委
嘱されてから、24年が過ぎました。

今では厚生労働大臣と役所の名称も変わりました。

私も10地区会長に指名され3期目になりました。
その間、第三合同会長が2期になり、いつの間にか
民生委員活動も25年目になりました。

民生・児童委員として高齢者福祉だけではなく、
児童福祉にももっと目をやるべきだと思い、地区役
員さんを始め、委員の皆様の賛同を得て、2017年か
ら社会福祉法人「からしだね」さんとともに、子ど
も食堂を始めました。いろいろと問題もありますが、
皆様のお力添えを得て今日に至っています。これか
ら民生委員児童委員信条の理念に沿えるように、
他の委員さんともども頑張っていきたいと思ひます。



笑顔は最高のボランティア

第五合同会長 茂出木直美

今期、野辺陽子前会長職務代理の
後任として第五合同会長をお引き受
けし、重責を感じております。

第五合同は、私の担当する江新地区と江北地区・
鹿浜地区との間に荒川が流れています。そのため、あ
まり行き来はありませんが、中村会長(江北地区)・
鈴木会長(鹿浜地区)とはしっかり連携を図ってい
きたいと思っています。

少しずつコロナ前の活動が戻り、地域で困ってい
る方への相談支援で動けるようになりました。

「来てくれてありがとう」の言葉に励まされ、今まで当
り前と思っていたことにも感謝の気持ちが沸きました。

これからも民生委員児童委員信条ののっとり、常
に地域に目を向けながら、第五合同の皆様と協力し
笑顔で活動していけるよう努めてまいります。



安心して住み続けられる街に



全員研修会：会場の様子

令和2年度以来、コロナ禍により中断されていた全員研修会が令和5年8月3日に開催されました。酷暑の中、ギャラクシティ・西新井文化ホールに民生・児童委員と協力員、約520人が一堂に会しました。

幕開けはコーラス部「葦立『コール絆』」による合唱です。「糸」「心の瞳」二曲の披露がありました。創部10年目、合唱を通じて『絆』の大切さも学んでいます。現在、部員は26人で50人を目指しているとのこと。



コーラス部「葦立『コール絆』」

式典では、最初に主催者の市村智会長より「これまでは対面して困っている人の相談活動がままならなかったが、これからは本来の活動ができると思います。がんばってください」と挨拶がありました。

来賓挨拶では近藤やよい区長より、コロナ禍により、高齢者の体力低下や孤独感が増すなど福祉ニーズの変化がみえてきました。この変化やアフターコロナに対応した総合的な医療・介護の拠点づくりの必要性と事業をすすめるための体制として「福祉なんでも相談課」構想の紹介。そして「もっと安心し



都社協・荻野氏による講演

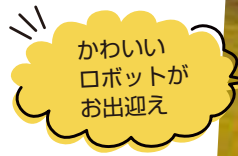
て住み続けられる自治体を民生委員の皆様とつくりたい」と話されました。長井まさのり区議会副議長、宮崎十三社会福祉協議会副会長からも挨拶をいただきました。

講演は東京都社会福祉協議会民生児童委員部長荻野剛氏より、「～アフターコロナ～今後の民生・児童委員に期待されることと民生・児童委員活動について」と題してお話がありました。コロナ禍により地域の福祉ニーズや民児協の活動も変化しました。この変化に応じて「民生委員に期待されること」「役割」についての説明がありました。さらに地域を取り巻く福祉ニーズの複雑多様化に対処できる包括的・重層的支援体制づくりの必要性が強調されました。最後に「知恵を出し合い地域を巻き込みながら活動を進めてください」との応援メッセージがありました。

研修会の結びは各委員会・部会の報告です。各委員長・部会長から「年間テーマ」と「今後の意気込み」について熱い思いを込めて報告がなされました。(江北地区 木村克博 記)



各委員長・部会長



「ちょっと先の未来体験ロボテラス」

最先端の生活支援ロボットを体験

令和5年6月22日、会長協議会視察研修が実施されました。研修先は「湘南産業振興財団 ロボテラス (ROBO TERRACE)」。

2014年に開設された生活支援ロボットの展示ショールームで、数種類のロボットが私たちを出迎えてくれました。まず、将来を見据えたビデオで、目と脳裏に介護ロボットの存在を植え付けました。その後、班に分かれて、それぞれのロボットを体感しました。アシストウォーカーは体重をかけるだけで、坂道も楽々と上り下りできる優れもの。コミュニケーションロボットや、ヒーリングパートナーはこちらの顔を認識し、歩み寄ってかわいい表情を向けて気持ちを癒してくれます。思わず目を合わせて微笑んでしまいます。

マッスルスーツは、実際に身体に装着し、10キロほどの重りを持ち上げて、その違いを身体で感じました。今は介護現場より、被災地などで大活躍しているとのことでした。

リハビリテーション&レクリエーションツールTANOは、前に立つだけで、体の動きや姿勢を瞬時に判断し、健康状態を点数であらわします。それをもとに、どんな運動をしたらよいかなどの改善策が提示され、結果を見ながら仲間と笑い合い、自然にコミュニケーションも深まるマシーンです。限りなく100点に近い委員もいました。

今回、私たちはほんの一部を体験しましたが、子ども向けのプログラミングやロボットセミナーなど、さまざまなイベントを開催しているようです。また、行きのバス内では「土木関係の話」「社会福祉協議会の活用術」などのテーマで中身の濃い研修が行われ、質疑応答では時間が足りないほどでした。

(第七合同会長 石川祥江 記)



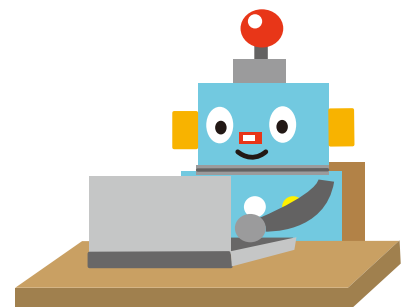
腰への負担なしでラクラク運べるマッスルスーツ。サイボーグになったみたいとの感想も



会長協議会メンバー24人と社会福祉協議会幹部職員など総勢33人が参加



前に立つだけで健康状態を判断し、リハビリ法を提案するTANO





特集

未来をつくる若者を支える — 「貧困の連鎖」を断ち切るために—

貧困が何世代にもわたって続く「貧困の連鎖」。その連鎖を断ち切る大きな鍵は「教育」といわれます。足立区には経済的な事情で進学をあきらめなければならない子どもたちを応援する制度があります。



写真提供：認定NPO法人カタリバ

大学受験をめざす学生に 給付型奨学金



これまでの「貸付型奨学金」を廃止し、令和5年度から「給付型奨学金」をスタートさせました。

- 応募資格**
- ・大学等に在学または入学予定
 - ・成績が4.0以上（5段階評価）
 - ・世帯収入が基準以下
（年収目安：4人世帯800万円）
 - ・生計維持者が区内に3年以上在住

募集人数 40人程度

給付額 『入学料』『授業料』『施設整備費』を全額給付 *実費相当額（上限あり）

- ★令和5年度分は定員40人に対し合計311人の応募があり、書類審査・面談等の結果、定員を若干超える計43人を奨学生として認定しました。
- ★令和6年度分の募集は締め切りました。令和7年度分の詳細については未確定です。

問い合わせ

足立区教育委員会 学務課
TEL 03-3880-5977

より利用しやすい制度に

貸付型奨学金を利用するということは、卒業と同時に多額の借金を背負って社会に出ることになります。返済の不安が大きな要因となり、「貸付型奨学金」の利用者が年々減少してきたなかで、足立区ではこの状況を打破するため、「給付型奨学金」へ大きく舵を切りました。給付型奨学金は国のほか一部の自治体でも実施していますが、足立区は大学等入学予定者や在学生の「入学料」「授業料」「施設整備費」を全額給付するという、前例のない規模となっています。

令和5年度から制度をスタートし、学費に不安を抱える世帯からの感謝の声とともに、さまざまなご要望・ご意見をいただきました。今後はこれらの声とともに、制度を運用していくうえでの課題について検討・見直しを行い、区民のみなさまがより利用しやすい制度に改善していきたいと思っております。

小さな声かけで夢を後押し

児童扶養手当の申請で、6年ほど前から関わっている高校2年生のご家庭に、給付型奨学金制度を紹介しました。両親が亡くなり高齢の祖父母に扶養されていますが、学級委員で成績もよく、将来は大学の先生になりたいという夢もあるということです。

まだ結果はわかりませんが、民生・児童委員からの小さな声かけが、彼女の夢を後押しするきっかけの一つになったらいいと思います。



東栗原地区 西野正幸



足立区学務課助成係
係長 小林祐二





成績上位で学習意欲も高いが、家庭の事情などで塾等の学習機会が少ない生徒への支援です。

難関高校をめざす中学3年生に

足立はばたき塾

民間学習塾のトップクラスの講師の下、難関高校への進学をめざします。

対象 足立区立中学在学の3年生

費用 無料

講座内容

毎週土曜日の定期講座
(英語、数学各100分)や特別講座

夏休み、冬休みの集中講座など

*申し込みは学校を通じて

問い合わせ

足立区教育委員会 学力定着推進課

TEL 03-3880-6717



難関大学をめざす高校生に

足立ミライゼミ

AI学習教材や予備校講師の個別指導で、難関大学への進学をめざします。

対象 足立区内在住の高校1年生

費用 無料

講座内容

①AI学習教材を用いた個別学習

②予備校講師等による個別指導

*所得審査・学力診断テストにより
対象者を決定

問い合わせ

あだち未来支援室

子どもの貧困対策・若年者支援課

TEL 03-3880-5717

将来を見据えた学習意欲を育みたい

アダチベースからも貸与型奨学金で、大学や専門学校に進学する子がいますが、社会への入り口で多額の借金を背負うのは辛すぎます。給付型奨学金は本当にすばらしい制度で、より充実したものになるといいですね。

一方、中高校生の時代から将来の夢に向かって、学業に励むのはたいへんなこと。まして「中3で初めて花火をした」「初めて人と鍋料理を食べた」というような家庭の子はなおさらです。身近に「こうなりたい」「こんなことをやりたい」と思える機会が圧倒的に少なく、将来を見据えた学習意欲につながりにくい現実があります。

民生・児童委員のみなさんの地域での活動に、アダチベースの子どもたちもお手伝いをさせていただければうれしいです。さまざまな人々との触れ合いや体験が、子どもたちの将来の夢につながり、学習意欲を高める原動力になると思います。



認定NPO法人カタリバ
マネージャー 佐渡加奈子

アダチベース：困窮世帯の中高校生の放課後事業（学習・体験・食事・居場所）を実施。足立区からの業務委託で、NPO法人カタリバが運営。

足立区には奨学金以外にも、若者を支えるさまざまな支援制度や相談窓口があります。まずは知ることから始めましょう。



問い合わせ

あだち未来支援室

子どもの貧困対策・若年者支援課

TEL 03-3880-5717 FAX 03-3880-5610



地 域 を 訪 ね て

シリーズ (活動報告)



「墨堤39フェスタ」で 民生・児童委員をアピール 3地区

コロナ禍で薄れてしまった地域のつながりを取り戻そうと開催された、千住夏祭り「墨堤39（サンキュー）フェスタ」（主催：青少年対策第三地区委員会など）に、3地区の有志で参加しました。

町会や自治会の焼きそばや綿あめ、ヨーヨーつり

などの露店がにぎわうなか、地域包括支援センター千住西のメンバーと民生・児童委員の活動を紹介するコーナーを開設。相談に訪れる方はいなかったのですが、パンフレットやグッズは気持ちよく受け取っていただきました。ミンジーの絵が気に入って家族分ほしいという子も。私たちの活動が周知できたことを願いながら、汗を拭う一日でした。

(3地区 中嶋伸子 記)



射的の露店は子どもたちで大にぎわい。当日の参加者は1,500人余



消防署や地域の消防団も参加。消火訓練や起震車体験も



民生・児童委員の活動をアピール (龍田町防災ひろばで/令和5年8月19日)

「まちかど防災訓練」で貴重な体験 花保親交町会防災部

子ども会と共催で、まちかど防災訓練を開催しました。参加は少年野球部「シャークス」の子どもたち、シニアグループ「明朗会」の方、一般参加の方など約70人。

当日は小雨が降るあいにくの天気でしたが、起震車で震度7の体験、足立消防署 淵江出張所の協力での消火訓練や119番通報のしかたなど、緊急時に役立つ貴重な体験ができました。

今回、身体で感じた体験をもとに、各ご家庭や地域で防災について話し合っしてほしいと思いました。

(17地区 林哲司 記)

5回目の孤立ゼロプロジェクト 実態調査を実施 千住仲町会

日常적인見守りや声かけで、支援を必要とする人を早期に発見する足立区の孤立ゼロプロジェクト※に協力し、地域の高齢者の実態調査を行いました。その結果、緊急支援が必要な方はゼロ。孤立のおそれありと判定された方、不在等の方は、今後、地域包括支援センター千住西の職員が訪問することです。

調査員からは「活発でお元気な方が多い」とのこと。一方で、「ご近所から施設入居したと教えられた」などの報告もあり、改めて日常적인見守りの重要性を感じました。

(3地区 杉本和子 記)



起震車の震度7の揺れに、思わず机にしがみついた子どもたち



消火器の使い方を体験 (花保小学校校庭で/令和5年7月1日)



調査には民生委員を中心に、地域の方26人がボランティアで参加。合計89世帯を調査

※孤立ゼロプロジェクト対象は介護サービスを受けていない70歳以上の単身世帯と75歳以上のみの世帯



大学生のボランティアが運営する 駄菓子屋さん



スタッフとかわいいお客さん

関三通り商店街（足立区関原）の一角に、大学生のボランティア（特定非営利活動法人 Chance For All 学生チーム：以下スタッフ）が運営する駄菓子屋「irodori」があります。いまの子どもたちに足りないといわれる三問「時間・空間・仲間」づくりを応援するため、2年ほど前に開店しました。

店内では、小学生たちが買った駄菓子を食べながらおしゃべりしたり、フリースペースの本やマンガを読んだり、ごちゃまぜになって過ごしています。ボードゲームなどでスタッフと遊びながら話をしたり、宿題をしたりする子もいます。

「irodori」事業リーダーの野中さんによると、自分自身や他の人を傷つけないということ以外は子どもたちの自主性に任せているそうです。駄菓子を買

う子は1日に40～50人、フリースペースの利用は1日約15～20人と多くの子どもたちが利用しています。

またスタッフに「高校って、どんなところ？」と聞いたり、「大学って楽しそう。大学へ行こう。」と思ってくれたり、年が近いのでロールモデルとなっている一面もあるとのこと。ここではみんな生き生きと顔が輝き、子どもらしい姿が見られます。

地域からは「商店街が明るくなった」「学生さん、がんばって！」など声援をいただいているそうです。野中さんは、「これからも子どもたちがいつでも来られる居場所として存続していきたい」と優しい笑顔で話してくれました。

（8地区 吉澤はる江 記）

中学生短歌コーナー

足立区立谷中学校

寝て起きて 今日もはじまる 一日が いつもとおなじ 日常の音
二年 花島 一牙 はなしま いっさ

いろいろと 気難しくなる この頃を 土曜を目指し 必死に泳ぐ
二年 長坂 和玖 ながさか わく

テスト前 私と机 ならめっこ 終わった後は 母とならめっこ
二年 白田 理桜 はくた りお

全員で 呼吸をそろえ 進んでく みんなでつくる 金賞の音
二年 柴崎 結有 しばさき ゆゆう

小学生絵画コーナー



「星の落ちる夜」
花畑第一小 5年 朴是禹 作 はくしゅう



「そらのたび」
平野小 6年 伊藤礼恩 作 いとうれお

男の居場所「そうG」活動開始！

団体名「そうG」は、掃除をするおじいさんの意味です。地域包括支援センター西新井の「男の居場所を作りませんか」の取り組みのなかで、「はじめてのフレイル予防教室」などの修了者7名でスタートしました。

「まずやってみよう」の精神で始めた町の美化活動。「グループで掃除をすると、身体的に気持ちが良い」「清掃活動は気が進まなかったが、実際にやってみると楽しい」「近隣の住民に“ありがとう”と言われると、とてもうれしくなった」「仲間と会話しながら活動できるのが良い」などの感想がありました。

また先日の活動では、点字ブロックに沿って歩道を歩いている目の不自由な女性が、ブロックから逸れていく姿に気づいたメンバーの一人が、手を取って点字ブロックまで戻してあげました。女性から「ありがとうございました」と

感謝される心温まる光景もあり、メンバーの方は「よりやりがいを感じる」と話されていました。

男の居場所づくりとして始めた清掃活動ですが、メンバーも9名に増え、絆のあんしん協力員として見守りを兼ねての活動に発展。地域社会のなかで高齢者の孤立を防ぐとともに、地域住民との繋がりを持つという役割も期待されています。
(15地区 向山義一 記)



あんしん協力員さん。

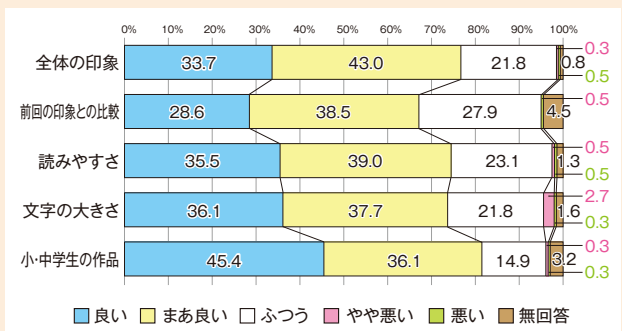


広報紙「さくら」アンケート調査から



広報紙「さくら」を読んだ印象は、76.7%の方が「良い」または「まあ良い」と回答されていました。読みやすさや文字の大きさなどについても、73%以上の方が「良い」または「まあ良い」と答え、多くの方に好感をもって読まれていることがわかりました。

また、前回62号から新しく始めた特集企画「LGBTについて知る」や、二次元コードから「さくら」バックナンバーなどへの誘導についても、好意的な感想が数多く寄せられました。今後も社会や地域の動き、取り組みなどにアンテナをはり、より広く読まれる「さくら」の作成を続けていきます。
(広報委員会 記)



対象：全員研修会参加者(8月3日)配布数 468 回答数 377

●「さくら」への原稿募集中!

原稿は未発表のものに限ります。
誌面の都合上、事前に地区の広報委員
にご相談ください。
過去の「さくら」はこちらから→



●今後、取り上げてほしいテーマ(複数回答)

私の一工夫(民生・児童委員活動)
民生・児童委員の活動報告
私の町の災害対策
子どもの貧困
無縁社会(孤立やひきこもり)など



編集後記

コロナ禍における行事や活動の制限がある中でも、広報委員会は工夫をしながら開かれてきました。今回の改選により新しく広報委員となりましたが、右も左もわからないまま今日に至っています。そんな中、先輩方の指導で「さくら」63号が出来上がりました。新メンバーによる仕上がりはいかがでしょうか。これからも一生懸命努力してまいりますので、よろしくお願いたします。

(江新地区 宇田川毅 記)

広報委員会

委員長	鶴岡 一郎	副委員長	吉田 祐一	編集長	杉本 和子	副編集長・レイアウト	吉澤 はる江	編集委員	山崎 雅明	宇田川 毅	木村 克博	小宮 忍	向山 義一	林 哲司	眞野 賢枝
校正長	富澤 久男	副校正長	富田 英紀	校正委員	芦田 利恵	倉持 弘	藤本 悦子	下岡 幸子	西野 明美	赤岩 明美	鈴木 政博	中村 知代	永塚 徳雄	宮澤 カヨ子	